



## 学校経営の検証と今後の課題について（後編：部活動について）

今回は保護者様からの学校評価アンケートへの回答をお伝えしました。貴重なご意見をいただき、お礼申し上げます。今回は部活動について、学校の見解をお伝えします。保護者様からは部活動の充実につきまして、2件のご意見、ご要望をいただきました。「熱心に指導してほしい」、「練習試合が少ない」、その他、「生徒の頑張りをきちんと把握した上で選手選考をしてほしい」という内容もありました。今回は部活動を取りまく現状をお伝えしながら、本校の部活動運営についての考えをご説明します。

### ①国による部活動の地域展開の考え方

近年、部活動を取り巻く状況は大きく変化しています。スポーツ庁は、中学校の部活動を、学校単位から地域単位へ移行する「部活動の地域連携・地域クラブ活動」を推進しています。これは、教員の負担軽減、指導者の確保、子どもたちの多様なニーズに応えることを目的としています。詳しくは右のQRコードから資料を見てください。今後、部活動は地域クラブへの移行が加速していくと予想されます。



### ②社会的な課題

部活動については、これまで国のスポーツ振興や教育的意義について大きな役割を果たしてきました。一方で教員への過剰な負担から、結果的に教員不足を招く一因になっています。全国の採用試験の受験者数は11年連続で減少しています。教員の負担軽減は喫緊の課題となっています。また地方においては専門的な指導者の不足や地域クラブの体制が整っていないという状況があり、生徒たちの活動の場が少なくなっています。

### ③他自治体の状況

各自治体においては、徐々にですが、部活動の地域展開が進められています。例えば山口県や神戸市は中学校の部活動を地域クラブに移行しています。また、愛媛県伊方町では、複数の学校が連携し、拠点校方式で部活動を実施することで、子どもたちの選択肢を広げています。しかし、一方で地域展開に向けて議論は始まっていますが、まだ十分に進んでいないのが一般的な状況です。

### ④安来一中の現状と今後について

本校では部活動の重要性は認識しておりますが、専門性を有する教員が必ずしも顧問になっている状況ではありません。また人事において専門性を有する教員が赴任しないこともありますし、家庭の事情により顧問になれない教員もいます。さらに、少子化の影響による生徒数減の影響で、部員数は少なくなるけれども、部活動数が変わらないという状況も考えられます。そうすると教員定数の削減から教員数が少なくなり、顧問を充てることも難しくなることが、今後の現実的な課題です。

現在、一中では多くの地域指導者の方々にお世話になって指導していただいています。今後は、部活動の地域展開がすすめられると思いますが、体制が整うまで一中の部活動は、地域指導者の方々に協力を仰ぎながら、市の部活動ガイドラインを遵守しつつ、できるだけ現状維持を図る必要があると考えております。しかし、地域指導者についても、すべての部活動に配置できていないのが現状です。このような状況においても、なんとか専門的な指導者を確保したいと考えておりますが、保護者様が望まれるような十分な体制は確保できていないのが現状です。一中の部活動運営は今後も厳しい状況が続くそうです。生徒にとって大切な時間と場所である部活動を存続させていきたいと考えていますが、学校だけで対応していくことに限界が近づいています。持続可能な部活動の体制を構築するため、保護者様のご協力をお願いしたいと思います。具体的なことについては、部活動によって状況が違いますので、各部活動の保護者会等で状況を把握していただき、部活動の体制づくりにどうかご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

### ご寄付を頂戴しました

## 安来一中第17期卒業生の皆様より

2月17日、一中の17期卒業生会の代表お二人が来校され、多額のご寄付を頂戴しました。卒業生の皆様は節目に同窓会を開催されてきましたが、今回をもって最後にするため、残った金額を寄付したいとの依頼でした。ご卒業されて60年以上経ちますが、一中のことを大切に思ってくださいに、感謝申し上げます。いただいたご寄付については、生徒たちの教育活動に有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

### 3月10日

## 卒業証書授与式を挙ります



いよいよ今年度最後の月となる3月を迎えました。3年生にとっては、中学校生活の集大成となります。コロナ禍では感染症対策の必要性から、卒業式をアルテピアで開催しておりましたが、今年度は昨年度に引き続き、本校体育館での開催となります。コロナ禍が去り、学び舎での卒業式が挙行できますこと、大変うれしく思っております。3年生の門出にふさわしい時間になるよう、在校生とともに心を込めて準備します。なお、1・2年生は教室でリモート参加となります。

## 地域の方から学ぶ税金の話

### 租税教室を開催しました

1月下旬、2日間にわたって、遠藤税理士事務所の遠藤清二さんに来校していただき、3年生を対象に租税教室を行いました。

税金のしくみや使い道について、わかりやすく説明をしていただきました。税金がなくなったら楽になるなど考えることもあるかもしれませんが、しかし、なくなったらどうなるのかということを知りやすく説明され、税金の重要性について知ることができました。また税金はどう公平に集め、使うことが大切なのかについて考えるきっかけになる授業でした。

遠藤さんが話された中で印象に残っているのが、「日本は『国民主権』の国家であり、主人公はみんなです。」「税金は国民を幸せにするためのものです。」でした。国民の三大義務の一つとして「納税の義務」があります。

税金の使い道について関心を持ち、日本全体が豊かな生活になるよう、私たちは政治に関わる必要があると感じました。

### 一中校区小中連携事業

#### あいさつ運動を実施しました

1月から2月にかけて、本校の生徒会がそれぞれの出身小学校に出向き、あいさつ運動を実施しました。小学生の登校班が到着するたびに、中学生から声をかけ、挨拶を交わしました。小学生は最初は戸惑いながらもハイタッチする様子も見られ、いつもと違った登校時の様子が笑顔も見られました。



### 2年生総合的な学習の時間

#### 職業人に学ぶ

2月6日、安来・松江市内の事業所の方々に来校していただき、1グループ10人程度で、午前と午後の2部制で事業所の方から、職業についてお話を聞かせていただきました。

生徒たちはあらかじめ自分の興味のある職種を希望し、その職種について調べを進めました。当日は、真剣に話を聞き、積極的に質問する姿が見られ、講師の方も感心しておられました。皆さん安来や松江を中心に従事しておられ、生徒たちが将来地元で活躍してくれることを楽しみにしておられました。生徒たちにとって大変充実した一日になりました。



## 卒業おめでとう

### 3人の友人の話



3年生の担任をしていると、最後の学活では何を話そうかなといろいろと考えます。今回は校長として紙面を借りて、卒業する3年生へのメッセージを送りたいと思います。もちろん1・2年生の皆さんにも読んでほしいです。今回紹介したい私の友人が3人います。とても個性的なので少しでも皆さんの生き方の参考になればと思います。

まずは1人目。先日、所用で東京に行く機会があり、高校卒業以来40年ぶりに会って話をしました。彼は大きな会社の取締役になっていました。気さくな性格で、今回も高校時代と変わることなく楽しい時間になりました。彼は非常に優秀でしたが、あまり勉強はしませんでした。その後浪人し、一念発起して勉強して大学に入学します。しかし留年も経験して、その後銀行に就職、数年のアメリカ留学を経て商社勤務、そして転職し、現在の立場です。彼は成功体験ばかりでなく、さまざまな経験をしています。話をしていると「会社の若い人は優秀な人が多いけど、梓からはみ出すような個性はないなあ。みんな失敗を恐れている気がする。」と話してくれたことが印象的でした。きっと小さな頃から失敗をせず成長してきた人が多く、個性の強さや泥臭さを感じないんだろうなと勝手に想像しました。私は、失敗は若い人の特権だと思っています。その積み重ねがどれだけ後の人生に役立つか。うまくいったことばかりでなく、失敗も含めた体験が人間の幅を広げてくれると思っています。「今度機会があったら、うちの学校に来て生徒たちに話をしてよ」と言ったら快諾してくれました。今後チャンスがあるかもしれません。

2人目です。医者の友人がいます。高校の成績は多分私と同じくらい。彼は4年浪人して医大に入学しました。跡を継がなければならなかったからです。就職して数年経った頃、高校の同窓会がありましたが、彼は「まだ学生なんだ」とにっこり笑っていたのが印象的でした。私は心から尊敬しました。自分の目標をあきらめることなく、じっくりと力を蓄え、目標を実現させました。今では大学の客員教授の立場でもあります。努力は報われるんだということを彼の経験から学びました。

3人目です。学生時代の友人です。彼はシステムエンジニアとして世界を飛び回っています。彼は教育学部出身でしたが、一般企業に勤めました。直近で会ったのは3年前ですが、いろいろ参考になる話をしてくれました。彼は電子マネーに関するシステム開発に携わっています。「プログラミング教育がいよいよ学校でも重視されてきているけど、業界としては早くからやった方がいいの？」との私の問いに「まあ、やらないよりはいいけど、それよりも顧客が何を望んで、どんなシステムにしたいのかをしっかりと聞いてつくらなければならないから、やっぱり大切なのはコミュニケーション能力かな。」と答えました。働く上でやはり大切なことなんだと改めて感じました。そういえば3人とも個性は違いますが、話していて楽しいし、心地いいです。聞き上手で話もわかりやすい。

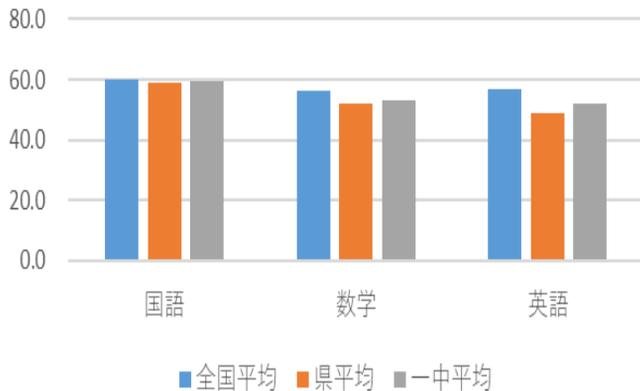
私の友人の3人の話でしたが、それぞれが自分らしさを発揮し、いきいきとしていました。皆さんにとって、少しでも生き方の参考になればと思います。

# 学力調査の結果から見えること ～島根県学力調査～

## 【第1学年】

正答率	国語	数学	英語
全国平均	59.9	56.2	56.8
県平均	58.8	52.1	48.6
市平均	58.7	51.5	51.7
一中平均	59.5	52.9	52.0

1年生 正答率



### (国語)

- ◎全国平均とほぼ同じ正答率です。「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を書く」「文法・語句に関する項目」については全国平均を上回っていました。
- 「文章の読み取り」に課題が見られました。また「文章を書く」ことについては、全国平均と大きな開きはありませんが、約2割が無回答という状況でした。

### (数学)

- ◎「文字式」については正答率が全国を上回っていました。基本的な内容がつかめています。また文章題を説くための方程式の立式、図形問題の正答率が高く、定着している生徒が多いです。
- 「分数を含む1次方程式」の正答率が低く、なおかつ無回答も多いです。また、「正の数負の数」の加減乗除の基本的な計算について、計算の方法が曖昧な回答が多いです。基礎・基本の定着が必要です。

### (英語)

- ◎リスニング問題について、対話の概要を捉えて、適切に応答する力が優れています。
- 単語の並び替えによる英作文の問題については正答率が高いですが、場面に応じた英作文や3文以上の英作文については3割程度が無回答でした。

## 【全体を通して】

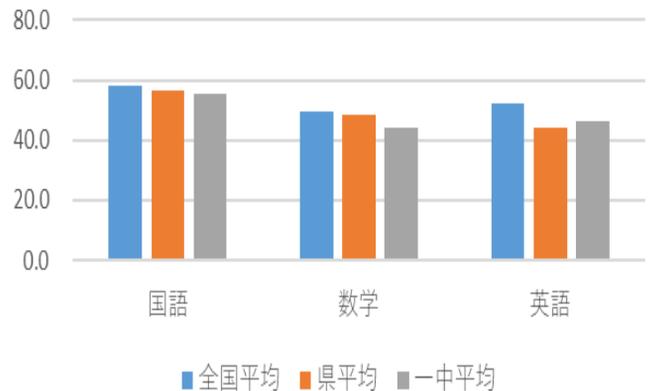
1・2年生の強みと弱みについてまとめてみました。少ないスペースにおいて、書き切れない部分もありましたが、本校の全体としての状況については上記の通りです。気になるのが、文章を書く(英作文も含めて)ことに抵抗感があることです。自分の考えをまとめ、表現できるよう課題を解決できるようにするため、全教科で取り組み、表現力を高めていく取組をすすめていきます。

また、今回の学力調査の結果や評価について、個人の診断表があります。ぜひ生徒本人はもちろん、ご家庭でも確認していただき、苦手な問題に取り組んでいただきたいと思います。

## 【第2学年】

正答率	国語	数学	英語
全国平均	58.0	49.6	52.1
県平均	56.6	48.7	44.1
市平均	56.0	45.6	44.2
一中平均	55.3	44.2	46.2

2年生 正答率



### (国語)

- ◎「漢字を書く」「説明的な文章の内容を読み取る」「報告する文章を書く」ことについては全国平均を上回っていました。全体的に言葉の特徴や使い方に関する事項は正答率が高かったです。
- 「漢字を読む」「文学的な文章の内容を読み取る」項目について全国平均を下回りました。また、「指定された長さの文章を書く」「2段落構成で文章を書く」「自分の考えを明確にして書く」こと等に関しては全国平均を下回るとともに、無回答率が4割となっており、課題があります。

### (数学)

- ◎「図形の性質」「証明」については全国平均とほぼ同程度の正解率でした。
- 「式の計算」について乗法と除法が混ざったり、分数の式だったりする計算が曖昧になっている生徒がいます。基礎・基本の定着を図る必要があります。また、「関数」については、全国平均を下回る項目が多かったです。

### (英語)

- ◎語彙の知識についての理解は比較的正答率が高かったです。
- 英作文全般に課題が見られます。場面に応じた作文、また3文以上の作文についても課題があります。無回答率が4割となっていました。

## 【第1学年】

### ◎県の数値より高い10項目（差が顕著なもの）

- ・学習塾に行き、勉強している。  
56.3% (+29.8)
- ・勉強にPCを利用している。  
72.2% (+27.0)
- ・勉強に辞書（電子辞書を含む）を利用している。  
35.7% (+11.4)
- ・参考書や問題集などを使って、勉強している。  
54.0% (+8.0)
- ・困っている人の手助けをしている。  
82.5% (+7.6)
- ・新聞の記事を読んでいる。  
21.4% (+7.5)
- ・家の人から言われなくても、進んで勉強している。  
71.4% (+7.2)
- ・勉強に図書館を利用している。  
23.0% (+6.4)
- ・勉強するときは、集中して勉強している。  
82.5% (+6.1)
- ・学校に出かける前に、忘れ物がないか確かめている。  
77.0% (+5.8)



### ◇全体的な考察として

「学校で使うものは自分で用意している」「筆記用具などを用意してから、勉強している」など学習に対する姿勢については95%を超えています。また、「朝食をきちんと食べている」（94.4%）「夕食を…」（94.4%）など、基本的な生活習慣に関わるポイントがほぼ95%という高い数値でした。「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」（69.0%）はやや低い感じがしますが、県平均より4.3ポイント高かったです。

「学校に出かける前に、忘れ物がないか確かめている」「家の人と決めた約束やきまりを守っている」「家の人から言われなくても、進んで勉強している」「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」は、肯定的な回答が高いほど学力調査の正答率が高い傾向にありました。「参考書や問題集などを使って、勉強している」「テレビのニュースを見ている」についても同様の傾向でした。

「学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強しますか」については、「1時間くらい」が最も多く26.2%でしたが、「1時間30分くらい」から「2時間より長い」はいずれも県の値よりも高かったです。ただし、「ほとんどしない」から「30分くらい」が3.4%を超えています。学力向上のためには、ある程度の学習時間は必要です。家庭での生活について、改めて考えてみてください。

### 【令和7年度に向けて】

全ての中学生に言えることですが、学校からの宿題だけすればよいという考え方では、自主性は育ちにくいのです。仕事でも一般生活でも将来の生き方として、課題を見つけてさらに高められる力が必要です。自分を成長させるためには、日々の生活の中でプラスアルファとなる学習が必要です。やらされる学習から自らすすんで学習する姿をめざしてほしいと思います。宿題をたくさん出せば、生徒たちの学習時間は必然的に長くなるかもしれませんが、中学生にとってこれからの長い人生の中で「やらされる時間」を多く費やせば、知識はついたとしても「自主的・自律的な態度」「学習に向かう姿勢」については課題となってきます。

現在、研究部において来年度の教材や家庭学習のあり方を検討しておりますが、一中として、バランスのとれた家庭学習の確立をめざし、ご家庭と協力しながら取り組んでいきたいと考えております。ご理解、ご協力をよろしくお願いたします。

## 【第2学年】

### ◎県の数値より高い10項目（差が顕著なもの）

- ・参考書や問題集などを使って、勉強している。  
65.4% (+16.6)
- ・睡眠不足にならないようにしている。  
83.8% (+13.6)
- ・自分で時間を決めて、テレビを見ている。  
58.1% (+13.4)
- ・勉強にPCを利用している。  
61.0% (+12.4)
- ・家の人から言われなくても、進んで勉強している。  
77.2% (+12.3)
- ・困っている人の手助けをしている。  
86.0% (+10.8)
- ・自分で時間を決めて、遊んでいる。  
84.6% (+10.8)
- ・学習塾に行き、勉強している。  
41.9% (+8.6)
- ・夜は、時刻を決めて寝ている。  
58.8% (+8.5)
- ・勉強するときは、集中して勉強している。  
86.8% (+7.8)



### ◇全体的な考察として

「筆記用具などを用意してから、勉強している」「朝食をきちんと食べている」「学校の決まりを守っている」「学校で使う物は、自分で用意している」などの生活習慣や学習習慣に関わる項目で95%を超えていました。

クロス集計の結果を見ると、「朝食をきちんと食べている」「学校の決まりを守っている」に肯定的な回答が高いほど学力調査の正答率が高い傾向にありました。「家の人に『行ってきます』『ただいま』などの挨拶をしている」「筆記用具などを用意してから、勉強している」についても同様の傾向でした。

「学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強しますか」については、「1時間くらい」が最も多く33.8%でしたが、「1時間30分くらい」から「2時間より長い」は1年生同様にいずれも県の値よりも高かったです。「ほとんどしない」から「30分くらい」が45%を超えています。そのうち「30分くらい」が24.3%です。これらの回答したみなさん、まずは自分の今の学習時間に30分プラスしてみましょう。スマイルドリルをやってみる、学びポケットの動画を見る、期末テストや学力調査で間違ったところをもう一度挑戦してみる等、とりあえず春休みまでにできることを計画的にやってみてはどうでしょうか。保護者の皆様、どうか声がけ、奔走をお願いします。